

商店街のにぎわいに関する空間構成要素に関する研究

社会システム計画学研究室2016年度卒業研究 高崎安佑美

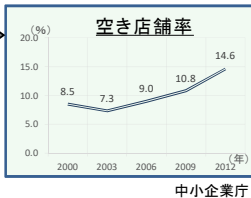
研究の背景

全国的に商店街が衰退の傾向



- ・モータリゼーションの進展
- ・消費者の生活スタイルの変化

商店街では、まちの商業が発展し、活力を維持していくために商店街は活性化やにぎわいの創出が求められている



商店街の取り組みの一つとして、魅力的な空間形成があげられる。これは商店街の良いイメージを与え、再訪してもらえうきかけとなる。

空間の質の向上はにぎわいを生み出すために重要

研究の目的

商店街の空間を構成する要素で、にぎわいに関係する要素を抽出するために調査を行い、複数の空間構成要素を扱い、大規模な改修に抛らない要素に着目

にぎわいの評価に影響する空間構成要素を明らかにし効果的な配置パターンを提案

各要素のにぎわいへの寄与率を定量的に把握

分析結果を用いて

商店街で空間構成要素に対する取り組みの際の評価尺度を提案

本調査

目的: 商店街の街路のどの要素をどの地点に置けば、にぎわいの評価が上がるかを示す

因子を識別可能な6つの店舗の軒先の位置、水準をプレ調査2で選んだ3つを用いる

因子	水準1	水準2	水準3	水準4	店舗左3	店舗左2	店舗左1	店舗右2	店舗右1
左1	置き看板	オープンカフェ	陳列台	x	3	3	3	3	3
右1	置き看板	オープンカフェ	陳列台	x	2	2	2	2	2
左2	置き看板	オープンカフェ	陳列台	x	2	2	2	2	2
右2	置き看板	オープンカフェ	陳列台	x	1	1	1	1	1
左3	置き看板	オープンカフェ	陳列台	x	1	1	1	1	1
右3	置き看板	オープンカフェ	陳列台	x	1	1	1	1	1

因子 7m間隔の店舗の軒先



実験計画法より表された25種類の組み合わせの画像を作成し、1~5点の得点をつけてもらった

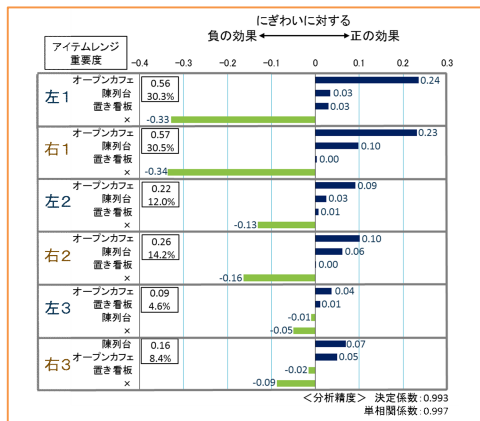
調査時期	2017年1月
対象者	15~69歳の男女
アクセス数	756件
回収部数	440部
有効回答率	392部
形式	Web調査
調査項目	画像のにぎわいの点数

一定の評価の回答は分析対象から除外

分析

空間構成要素の位置と種類のにぎわいへの影響度

本調査の結果を用いコンジョイント分析を行った



結果

アイテムレンジと重要度より
■ 手前の位置ほどにぎわいへの影響度が大きくなる

部分効用値より
■ 要素や位置により影響度は異なる

調査の基礎集計結果

プレ調査1

目的: 多くの空間構成要素の中からにぎわいの根拠として注目されるものを抽出

同規模の商店街の写真を一対比較よりにぎわいを感じる写真の選択とその根拠を把握



項目	票数	項目	票数
店	29	上の装飾	7
陳列台	27	吊り幕	7
商品	27	木の装飾	6
看板	21	曲がった道	4
のぼり	19	照明	4
開店	18	奥行き	4
ベンチ	13	電話ボックス	4
下駄	11	自転車	4
自転車	10	オープンカフェ	4
アーケード	10	壁	3
道幅	8	植物	3
植物	8	置物	3

順位の高い要素と類似した要素のグループをプレ調査2で使用

プレ調査2

目的: 分析に使用するべき重要なものを抽出

項目	項目	項目
●アーケード	●案内板	●陳列台
●照明	●植物	●看板(店)
●看板(商店街)	●ベンチ	●オープンカフェ
●のぼり	●天井の装飾	●自転車
●吊り幕	●開店	●舗装

商店街において、言葉のイメージよりにぎわいへの関りが強いと思う要素を選択し、1~5位まで順位付け

5~1点に得点換算し、合計点を集計

順位	項目	合計点
1	開店	197
2	照明	174
3	アーケード	171
4	看板(商店街)	149
5	天井の装飾	148
6	のぼり	121
7	吊り幕	101
8	オープンカフェ	100
9	看板(店)	98
10	案内板	68
11	舗装	60
12	陳列台	49
13	植物	34
14	ベンチ	17
15	自転車	17

開店(シャッター)が閉まっているが1位
しかし商店街は店舗の開閉を左右できない...

開店を感じられる要素かつ、大規模な改修を伴わない「置き看板」「オープンカフェ」「陳列台」を本調査で使用

適応例

にぎわいの安定した商店街の検討

商店街は取り組みをする際、効果を平等に還元する必要がある。そのため、どこから見てもにぎやかに見える眺めが求められる。

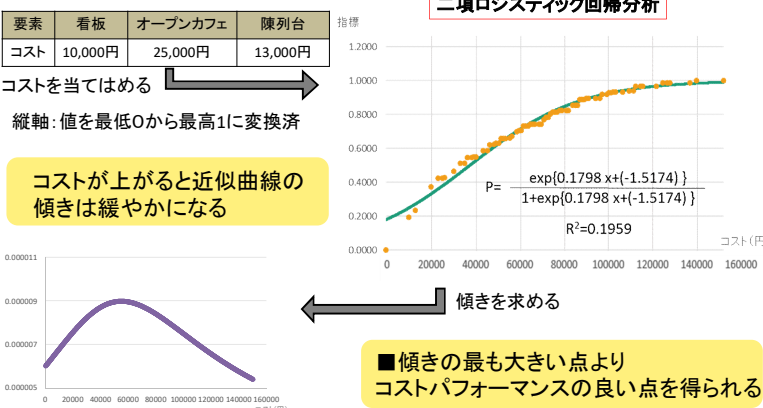
通りに本調査で使用した6つの配置が連続していると仮定すると、通りの見え方が3種類得られる。6つの指定した要素を用い、3地点の得点の合計点が等しく、分散の違う画像を比較してみた。



にぎわい点の高い空間構成要素を道の両側に配置しない方がにぎわいが安定する

コストとにぎわいの関連把握

前提条件として、商店街の予算には上限がある限られたコストから目指すべきにぎわいに対応するため、コストに関連したにぎわい指標を示す。



コストが上がると近似曲線の傾きは緩やかになる

二項ロジスティック回帰分析

傾きを求める

■ 傾きの最も大きい点よりコストパフォーマンスの良い点を得られる